

[成果情報名]沖縄県の平張り施設電照栽培における5月および6月出荷作型に適する夏秋小ギク品種「こずえ」、「精しらいと」

[要約]沖縄県の5月出荷作型および6月出荷作型に適した夏秋小ギク品種として、赤系品種の「こずえ」、白系品種の「精しらいと」を選定した。

[キーワード]夏秋小ギク、5月および6月出荷作型、「こずえ」、「精しらいと」

[担当]沖縄県農業研究センター野菜花き班

[代表連絡先]電話 098-840-8506

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

沖縄県は国内におけるキクの主要産地であり、特に小ギクは日本一の出荷量となっている。作型は秋ギクを用いた12月年末および3月彼岸出荷が中心であるが、近年は、県外の小ギク産地の出荷が本格化する7月までの端境期である5、6月の沖縄県産小ギクの出荷が市場から期待されている。本県の栽培条件下での5月および6月出荷作型においては、夏秋ギクの電照栽培が有望であるが、夏秋ギクは秋ギクと比べて電照下でも早期発蕾が生じる品種が多く、適品種の選定が課題となっている。

そこで、夏秋小ギクの品種・系統を供試し、5月および6月出荷作型向け品種選定を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 早期発蕾しにくく、到花日数が対照品種と同等で、切り花品質が良い品種は赤系品種の「こずえ」、白系品種の「精しらいと」である(表、図)。
2. 「こずえ」は対照品種と比べて早期発蕾率が6月出荷作型でやや高いが、5月および6月出荷作型とも対照品種と比べて到花日数が短い。また切り花品質は5月および6月出荷作型とも切り花長、着色花蕾数が優れており、調整後重量は同等である(表)。
3. 「精しらいと」は対照品種と比べて早期発蕾率が6月出荷作型でやや低く、5月および6月出荷作型とも対照品種と比べて到花日数が短い。また切り花品質は5月および6月出荷作型とも着色花蕾数、調整後重量が優れている(表)。

[成果の活用面・留意点]

1. 5月および6月出荷作型向け品種選定を行う際の指導者向け資料とする。
2. 選定された2品種は開花揃い、アザミウマ類など虫害の程度は対照品種と同等である。
3. 本試験は、農業研究センター内平張り施設(間口6m×奥行15m、土壌はジャーガル)にて、2018年は13品種・系統(黄系の「精やさか」、「金竜」、「みのる」、「精こまき」、赤系の「あかり」、「05-1304-1」、「04-1204-2」、「朝顔」、「こずえ」、「精ちぐさ」、白系の「そよかぜ」、「05-12105-4」、「精しらいと」)を、2019年は11品種・系統(2018年の供試品種から「04-1204-2」、「朝顔」を除く)を供試した結果、選定基準を満たした「こずえ」、「精しらいと」の2品種を選定した。
4. エスレル処理は早期発蕾抑制を目的に、親株の最終摘心時と採穂前の計2回行う。
5. 親株における多回数の採穂や穂の老化は早期発蕾しやすくなるため、適正な親株管理を徹底する。

[具体的データ]

表 夏秋小ギクの5月および6月出荷作型における品種・系統の切り花特性

作型	花色	品種名	試験年度	切り前日(月/日)	到花日数	切り花長(cm)	着色花蕾数	調整後重量(g)	早期発蕾率(%)
5月出荷	赤	あかり(対照)	2018	5/25	49	86.7 ± 0.7 ^z	9.5 ± 0.4	39.8 ± 1.5	-
			2019	5/25	47	75.5 ± 0.5	8.1 ± 0.4	33.1 ± 1.3	0.0%
	こずえ	2018	5/18	42	101.8 ± 0.6	27.8 ± 1.3	41.6 ± 1.2	-	
		2019	5/17	39	90.5 ± 0.6	15.4 ± 0.9	35.2 ± 0.7	0.0%	
	白	そよかぜ(対照)	2018	5/21	45	84.9 ± 0.8	9.1 ± 0.6	32.9 ± 1.2	-
			2019	5/23	45	77.8 ± 0.7	8.9 ± 0.7	32.9 ± 0.8	0.0%
精しらいと	2018	5/16	40	80.5 ± 0.9	20.8 ± 1.0	47.6 ± 2.0	-		
	2019	5/17	39	74.2 ± 0.8	20.1 ± 0.7	43.0 ± 1.5	0.0%		
6月出荷	赤	あかり(対照)	2018	6/16	45	84.0 ± 0.5	11.1 ± 0.5	41.7 ± 2.0	0.0%
			2019	6/19	47	79.4 ± 0.5	9.8 ± 0.3	36.2 ± 1.2	0.7%
	こずえ	2018	6/12	41	105.8 ± 0.6	20.7 ± 1.0	40.3 ± 1.3	6.0%	
		2019	6/12	40	89.8 ± 0.6	13.0 ± 0.6	35.5 ± 0.8	0.0%	
	白	そよかぜ(対照)	2018	6/23	52	90.1 ± 0.9	7.0 ± 0.4	34.9 ± 0.9	6.3%
			2019	6/20	48	78.4 ± 0.6	5.5 ± 0.3	31.8 ± 1.1	0.0%
精しらいと	2018	6/12	41	83.5 ± 0.7	20.2 ± 0.6	46.4 ± 1.6	2.9%		
	2019	6/12	40	71.7 ± 0.6	18.0 ± 0.9	43.3 ± 1.6	0.7%		

注1) 2018年の5月および6月出荷作型の定植日は2/21および3/19、消灯日は4/6および5/2である。

2019年の5月および6月出荷作型の定植日は2/20および3/20、消灯日は4/8および5/3である。

注2) 電照は白熱電球(東芝ライテック製75W)を用いて、12㎡あたり1球を畝面から1.8mの高さに設置し、5時間の暗期中断(22時から3時)を定植時から行い、再電照は実施していない。

注3) 仕立て方法は摘芯栽培で、3本仕立てである。

注4) 調整後重量は出荷団体の出荷規格に準ずる。

注5) 早期発蕾率の横バーはデータなしを示す。

z 平均値±標準誤差(n=28~30)



図 切り花草姿(左:「こずえ」 右:「精しらいと」)

(沖縄県農業研究センター)

[その他]

予算区分: 交付金

研究期間: 2018~2019年度

研究担当者: 亀山健太、田場奏美、儀間直哉、石垣新、島袋正明